



六浦南小

学校だより

本校学校教育目標：健康で笑顔がすてきな子

第356号

令和4年11月30日

横浜市立六浦南小学校

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mutsuuraminami/> TEL785-3244 Fax783-6984

今しかできない学びを通して成長へ

校長 柏原 奈保



先日、5年生の金沢区球技大会が本校で行われ、瀬ヶ崎小学校とサッカー、バスケットボールを通して交流しました。このような他校との交流は、実に3年ぶりのことです。今年度の実施についても区の校長先生や様々な学校から、実施を心配する声もありました。しかし、球技大会を通して他校と交流することや「大会」をめざしてがんばることの意義などを考え、「コロナが心配だからやらないではなく、コロナ禍でもできる方法を探ろう」と話し合いを重ね、実施しました。

当日。子どもたちは、練習の成果を発揮して楽しもうと頑張りました。バスケットボールのある試合で、瀬ヶ崎小のチームにメンバー5人のうち3人がバスケットボールを習っている子というチームがありました。対戦した本校のチームにも習っている子はいましたが、3人がボールを回すのはさすがに止めることができず負けてしまいました。試合後、本校の子どもは、どうにもできなかった歯がゆさで涙が止まりませんでした。閉会式が終わり、門で見送りをする頃、やっと涙が止まり、手を振って見送りをしていました。すると、先ほど対戦したチームの一人がすっと列から出て近づいてきました。そして「ありがとう。ごめんね。」というのです。しばらく列が進むと、また、別の子が来て、「大丈夫？やりすぎちゃった。ごめんね。でも、ありがとう。」というのです。試合なのだから、勝ち負けがあるのは仕方のないことです。勝てたことを喜んでいいのです。勝ったからと謝る必要はありません。でも、その子たちは、相手チーム子の涙を見て、わざわざ列を外れてまで出て来て、声をかけてくれたのです。声をかけてもらった子の目から、また涙があふれてきました。しかし、今度は笑顔で涙を流しています。そして「ありがとう」と答えていました。瀬ヶ崎小の子が帰った後、声をかけるとその子は、「なんか、すっきりした。悔しいけど、楽しかった。」と答えました。そばで見ていて、胸が熱くなりました。

このようなつながりは、実際に交流することでしか生まれません。コロナ禍は、終わりが見えませんが、これからは、コロナ感染症とどう折り合いをつけながら、子どもたちの学びを確保していくかを考えていくことが必要だと改めて感じました。

教育委員会から出されている「新型コロナウイルス感染症に関する衛生マニュアル」が11月に改訂され、感染症対策のうち、マスクの着脱及び児童生徒の健康観察、各教科等の教育活動の際の感染症対策について、内容が改訂されました。具体的には、屋外や体育の授業、登下校、屋内で距離が確保でき会話がほとんどない場合等にはマスクの着用は不要であること、登校時の検温結果や健康状態の把握は今後も行うが健康観察票での確認は行わなくてもよいとすること、各教科等の教育活動についてリスクが高いために制限されていた活動が感染症対策を講じた上での実施について緩和されたことなどです。この改訂を受けての本校の進め方については、現在、検討しております。12月中には保護者の皆様にお知らせできるようにさせていただきます。

子どもたちは、その年齢でしかできない学び、経験がある、それをどう守って、子どもたちの成長につなげていくかが大切だと考えます。コロナ感染症と共存しながら、今後も「健康で、笑顔がすてきな子」の育成を目指して、教育活動を進めていきます。ご協力をお願いいたします。